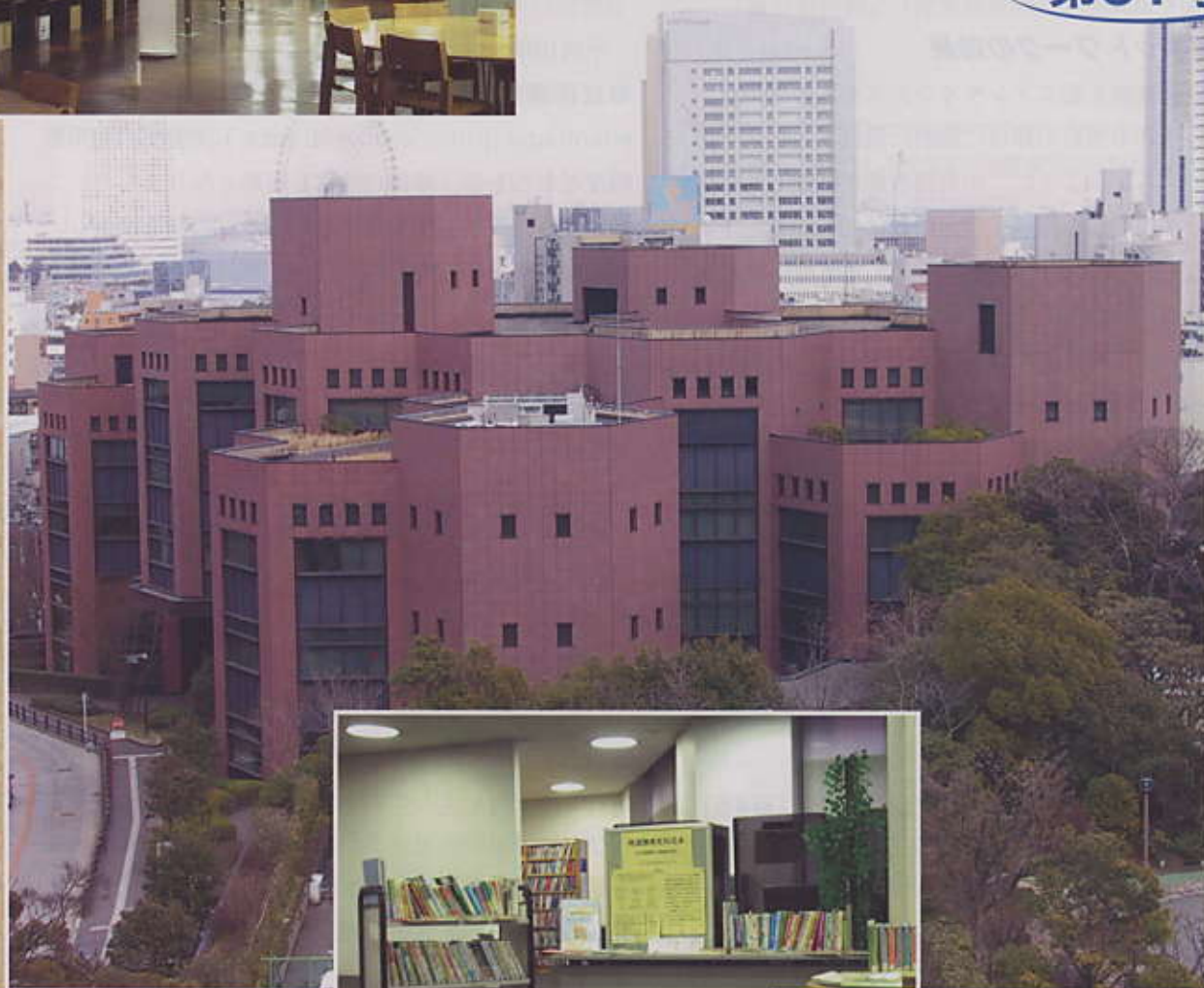


# 横浜

横浜市立図書館報

第51号



## 目次

- 特集：中央図書館開館から10年～変わる図書館…………… P2
- 横浜市内地域図書館のご紹介④…………… P6
- 参考図書のあるこれ（第12回）：マイクロフィルムで調べる…………… P8

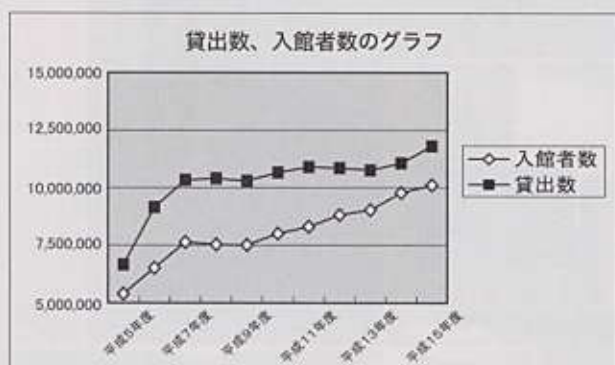
## 中央図書館開館から10年～変わる図書館

横浜市中心図書館は、平成6年2月に部分開館し公開資料の閲覧を開始していましたが、同年4月26日に全面開館し、地下1階から地上5階までの公開フロアの利用と、全資料の閲覧、貸出しを開始しました。これにより、横浜市立図書館252万冊の資料と利用者をつなぐ図書館情報システムが本格稼動することになりました。

### 図書館ネットワークの効果

全市立図書館を結ぶオンラインシステムの効果は、貸出しと予約の冊数の伸びに端的に現れました。下のグラフで明らかなように、中央図書館が開館した平成6年度は、前年度と比べて貸出冊数は40%の増、予約冊数は2.4倍となり、その後、現在まで漸増の状態を保っています。

コンピュータで管理する図書館情報システムの導入以前にも、目録カードを使って自分の利用する図書館の所蔵資料を探ることができましたし、持っていない資料を他の図書館から取寄せすることもできました。でも、館内の利用者用検索機で、市立図書館全体の資料の所蔵状況が一目でわかるようになったことが、資料の利用欲求の高まりにつながったと考えられます。



	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
入館者数	5,389	6,507	7,630	7,525	7,500	7,999	8,295	8,607	9,025	9,773	10,108
貸出数	6,649	9,143	10,326	10,390	10,287	10,649	10,893	10,846	10,755	11,053	11,799

※中央図書館 資料・館内  
館外 図書館

### 情報化の推進

中央図書館では、平成8年度から、新聞記事や雑誌記事索引などのCD-ROM閲覧用のパソコンを導入しました。国立国会図書館にCD-ROMコーナーができて2年後のことです。検索の多様さや、回答が得られる速さ、また、音声の収録も可能といった特性を生かしたCD-ROM資料は、中央図書館では現在約200タイトルを利用できます。

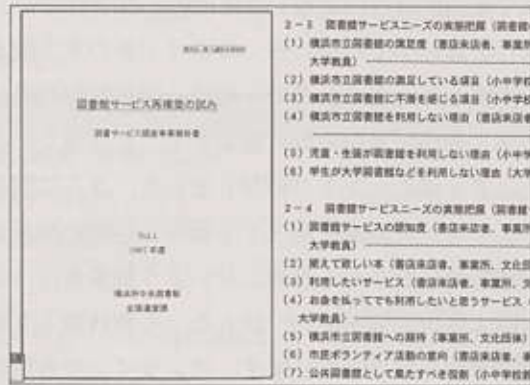
平成10年3月からは、横浜市のホームページの中に市立図書館のページを開設し、(<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/>) 図書館の利用案内などとともに、蔵書の検索も可能となりました。これにより、ご自宅であらかじめ求める資料を検索し、検索結果を印刷したものを持って来館される方が徐々に増えていきました。ただ、まだ図書館にはインターネット用サーバがなかったため、図書館の蔵書情報を横浜市のホームページ用に抜き取って移さなければならず、情報の更新は週に1度の割合でした。また、検索してわかるのは、どの図書館で本を持っているかまでの情報で、今その本が書棚にあるのか貸出中なのかということまではわかりませんでした。

### 図書館サービスの発展のために

図書館では、開館4年目の平成9年度から11年度までの3年間、「図書館サービス再構築の試み」と題した調査事業を行いました。中央図書館開館後、飛躍的に伸びた図書館の利用ですが、21世紀を見据えた市立図書館像の構築を目指したもので、図書館の現状分析と課題の把握、アンケート調査による利用満足度などの分析、そして将来の方向性を検討しました。この調査の特徴は、図書館利用者だけではなく、市内の書店来店者や、教員、市内事業所など、図書館を普段利用されていない方の声も対象として、図書館への要望を探ろうとしたところにありました。

また、平成11年度から4年間、中央図書館蔵書構成整理事業を行いました。通常の資料収集費とは別に予算を確保して、外部の専門家の意見も参考に図書館蔵書の評価、見直し、補強をしたものです。中央図書館として調査機能の強化が必要であるとの観点から、未所蔵の資料の洗い出しをして、その中に図書館として所蔵すべきものを見落としていないかの点検から始め、通常書店を通しては入手が困難なシンクタンクの調査

報告書などにも目を向けました。



サービス調査報告書

## 障害者事業の拡充

市立図書館の障害者事業は、視覚に障害のある方を対象に昭和52年に戸塚図書館で開始したのを皮切りに、平成13年度の都筑図書館での実施により、中央図書館を核とした全市的な事業展開が実現しました。

また、平成8年1月からは、障害があり図書館への来館が困難な方を対象に図書の郵送貸出を、さらに、平成10年度には、病院、高齢者・障害者施設などへの移動図書館の巡回を開始しました（10年度は試行、11年度から本格実施）。

情報化の進展は録音図書の形態にも変化をもたらし、平成15年度からはテープ録音と並行してCD録音を始めました。従来は、1冊の本をテープ化するのに90分テープでも平均6巻は必要となるため、かさばって利用するのに不便でしたが、CDには大量の情報をコンパクトに収録できるほか、テープに比べて劣化が少ない、読みたい箇所の検索が容易などの利点があります。



## 図書館情報システムの更新—情報化への対応

平成6年度から本格稼働した図書館情報システムでしたが、情報技術のめざましい進展の中、次第に機能の古さが目立つようになっていました。

たとえば、利用者用検索機で漢字検索ができない、前方一致の検索しかできないなどの点は、インターネットの検索が日常行われるようになると、使い勝手が悪いと受け取られるようになりました。また、運用面においても、高額な維持経費のかかるホストコンピュータのシステムは財政的に大きな負担となっていました。そこで、平成14年度に情報化への対応と運用コストの削減という二つの課題を解決するため、図書館情報システムの更新を行いました。

平成15年1月15日から稼働した新システムでは、利用者用検索機で掛け合わせや絞込み検索、前方・中間・後方一致検索など、多様な検索ができるようになりました。また、この検索機では、キーボードからはもちろん、キーボードの苦手な方が画面にタッチ式キーボードを呼出して、手で触って入力することも可能です。キーボード入力、タッチ入力の画面は共通で、タッチ入力でも高度な検索ができるのが特徴です。



利用者用検索機画面

その年の2月3日からは、インターネット蔵書検索も新システムに切り替えました。図書館独自にインターネット用サーバを導入したため、それぞれの本が現在図書館にあるのか、貸出中なのかといった状況がリアルタイムでわかるようになりました。新着図書についても、毎日情報を更新しています。

平成16年3月からは、書名や著者、出版社などの情報に加えて、目次、要旨・内容紹介、著者紹介なども表示するようになりました\*、検索結果で表示される本の内容が把握しやすくなりました。また、これら目次などの情報も検索の対象とできるので、自分の求める本がより的確に探せるようになりました。

こうして、蔵書検索の質が高まった効果は、インターネット蔵書検索のアクセス件数増加にも反映しています。旧システムの平成13年度に約84万件だったものが、平成16年度は約230万件（2月末現在）と、およそ3倍

の増加となり、情報化への対応の効果といえるでしょう。

※目次、要旨は「BOOK」データベース（㈱トーハン、日本出版販売㈱、㈱紀伊國屋書店、日外アソシエーツ㈱が共同構築）の昭和61年以降の約50万タイトル分データと、内容紹介、著者紹介は㈱日販図書館サービス作成の平成15年以降の約2万タイトル分のデータです。

【資料詳細】	
書名	世論調査年鑑 平成16年版
著者	全国世論調査の状況
編者	内閣府大臣官邸政治広報室/編
出版者	国立印刷局
出版年	2004.5
ページ数	624p
大きさ	10.1cm
NDC分類	301.47
種別	世論調査年鑑
目次(BOOK)	第1部 「全国世論調査の状況」の概要及び特色結果の概要（調査の概要；調査結果の概要）；第2部 平成14年度主要世論調査一覧（政治機関及び政府関係機関の世論調査；都道府県・市町村教育委員会・町選挙管理委員会等の世論調査；市・町教育委員会・町選挙管理委員会等の世論調査（ほか））；第3部 平成14年度主要世論調査結果一覧（政治機関及び政府関係機関の世論調査；都道府県・市町村教育委員会・町選挙管理委員会等の世論調査；市・町教育委員会・町選挙管理委員会等の世論調査（ほか））
ISBN	4-17-45025-7
雑誌番号	20404057

▲蔵書検索画面（インターネット・利用者用検索機共通）

## 読書ボランティア調査事業

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、子どもの読書環境整備が社会の重要な課題となっています。こうした状況の中、平成15年度に、市立図書館が子どもの読書推進にどのように関わっていくべきか調査を行いました。そこで浮かび上がった課題や市民の期待を、今後の事業展開にどう生かしていくかを検討しています。また、平成16年度には、個々の図書館でばらばらに行っていた読み聞かせ等の講習会を、「おはなしボランティア講座」として市立図書館全体の事業として立案・実施し、体系化した取組の確立に一步踏み出したところです。

▲おはなしボランティア講座のチラシとリスト

## これからの図書館 ～協力と支援

中央図書館開館の年、平成6年の新刊書籍の出版点数は約5万3千点でしたが、平成15年は約7万4千点に増加しています（「出版年鑑」1995年版、2004年版）。残

念ながら、この出版点数の増加に比例した図書購入費を確保できる財政状況にないことから、図書館では、限られた予算の中でいかに多くのタイトルの本を揃えるかを工夫しています。その一端は、図書館報第41号の「特集：本が図書館の棚に並ぶまで より速く、より広く、より深く」でもご紹介しました。さらに現在は、類似のテーマの本を購入する場合、近隣の横浜市立図書館間ではなるべく重複しないよう調整も行うなど、以前より市立図書館が一体となった資料購入を強く意識するようになってきました。オンラインで各館の所蔵状況がわかり、他館の資料でも取り寄せて利用できるという制度が広く浸透した結果、できるようになったことでもあります。

また、横浜市立図書館間の協力はもちろんですが、県内の他都市の公共図書館とも県立図書館を仲立ちとした協力体制が確立しています。週に2回県立図書館との間に資料配送の車を運行し、県内の公共図書館との間で貸し借りをする資料を配送しています。平成15年度の県内の公共図書館との相互貸借冊数は、貸出8,820冊、借用9,157冊に上ります。さらに最近の傾向としては、インターネット蔵書検索により、他県の図書館との相互貸借を行うケースも出ています。

そのほか、平成9年度に開始した図書館協力プログラムでは、図書館資料を使つての展示や、文献リストの作成などで、市役所内の他部局の事業に協力しています。そして平成11年度からは、庁内情報拠点化事業を実施しています。これは、市役所の業務で生まれる課題解決のための調査を司書が行い、役立つ資料や情報を提供するものです。いずれも、図書館資源を市政に活用することで、その成果を市民の皆さんに還元できればと考えています。

さらに、今後は、前述のおはなしボランティア講座など講習会の開催や、市民学級などへの協力、また学校図書館、市民利用施設の図書コーナー等への情報提供など、市民の読書活動に図書館がどのような支援ができるのかを検討していきたいと考えています。

## 情報提供機能の強化

平成12年の文部科学省の生涯学習審議会答申「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/shougai/toushin/001213.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/shougai/toushin/001213.htm)）では、図書館は「地域の情報拠点」として、従来からの紙媒体を中心とし

た資料に加え、デジタル化された資料・情報の提供や、この両者を有機的に連携させるなどにより、高度な情報提供機能を持つ存在となることが期待されています。

現在、市立図書館で取り組んでいるのはホームページを使った情報提供ですが、開設当初の蔵書検索、利用案内、所在地、休館日のお知らせなどに加え、平成11年度からは「Yokohama's Memory」として、図書館所蔵の浮世絵、絵葉書などの資料をデジタル化して、横浜の古い姿をホームページ上で紹介しています。平成15年度には展示会開催に合わせて「関東大震災と横浜 80年前のできごと」、「鎖国から開国への日々 嘉永七年、横浜村のできごと」という特集ページを、平成16年11月には、新潟県中越地震発生後に館内で配布した「横浜市立図書館所蔵地震関連図書リスト」の内容を、ホームページにも掲載しました。さらに、平成17年4月には緊急地域雇用創出特別交付金を利用してデジタルデータ化した図書、絵地図、浮世絵などの資料を「都市横浜の記憶」として公開します。



▲「鎖国から開国への日々」HP画面

そして、これらのコンテンツの増加に加え、平成16年度からは、電子メールでのレファレンス（調査）の受付を開始しました。

こうしたホームページの充実は、開設直後の平成10年度のアクセス件数約21万6千件から、平成16年度には約170万件（蔵書検索を除くページ。2月末）へと7.8倍の増加という結果につながっています。

また、前述の生涯学習審議会答申では図書館が地域住民の身近な施設として、多様な学習に役立つ情報を提供するなど生涯学習の推進役となる、あるいは情報リテラシー（情報通信技術を活用する力）を身につけることを支援することが今後の重要な役割となる、と提言されています。平成13年度から開催されたIT講習会では、市立図書館で285講座が実施され、約6千人の

市民の方々が受講されましたが、申込状況を見ると図書館会場を希望した方の応募は定員の約3倍となっており、市全体の平均の約1.4倍を大きく上回っています。これは、図書館が市民の皆さんの身近な学習施設として認知されている証であるとうれしく思うと同時に、その責任をあらためて感じるところです。

さて、IT技術の進展で、家にいながら世界の最新情報の入手もできる便利な時代、これからの図書館には求められているのは何でしょうか。梅棹忠夫氏は早くも昭和44年に「知的生産の技術」（岩波書店刊）中で、大量の情報が社会にあふれるこれからの世の中では、それを整理し、必要な情報を取り入れることが日常生活に求められる技術となると予見していますが、実はこの「整理」こそ、図書館の得意技なのです。ただ、世の中の知識を日本十進分類法と呼ばれる体系づけに従って並べておくだけでは、ちょっと物足りません。この情報の蓄積をもっと便利に使ってもらうにはどうすればいいでしょう。そこで、需要の高い資料を集めて情報科学コーナーやビジネス資料コーナー、郷土資料コーナーなどを作って目立たせてみたり、あるいは、地球温暖化、発達障害、地震など、関心をもたれているテーマの資料リストを作成して図書館の蔵書をアピールしたり、情報検索のための講座を催して資料の使い方をご案内したりしています。

せっかくの蔵書も使ってもらわなければ宝の持ち腐れになってしまいますので、これからもいろいろな形で皆さんと資料との出会いのきっかけを作っていきたいと考えています。



▲ビジネス資料コーナー

▶テーマ別本のリスト

# 横浜市内地域図書館の ご紹介④

横浜市の図書館は、中央図書館と市内各区の17地域図書館から成り立っています。この市内18の図書館は、連絡車で結ばれていて、お近くの地域図書館に目的の本がなくても、市内いずれかの図書館に所蔵していれば、取り寄せてお貸しすることができます。

各地域館でも各館ごとに、特色あふれる資料を所蔵していますので、随時各館のご紹介をします。今回は、鶴見図書館と瀬谷図書館です。



## 鶴見図書館

鶴見図書館はJR鶴見駅と京浜急行京急鶴見駅の二つの駅の間ロータリーから、旧東海道沿いの東口駅前通りに入って道なりに進み、途中で「鶴見駅東口入口」交差点を渡ってから200メートルほど行った左側に、3階建ての建物があります。これが鶴見図書館です。敷地の周囲に植えられたさざんかの木が目印です。所要時間はおよそ10分です。



鶴見図書館入口

図書館の前には、歩道に面して展示ケースがあり、新しく入った本の表紙をコピーしたものが20~30冊分ほど掲示されています。この掲示を見て、読みたい本を決められる方が大勢いらっしゃいます。

開館して26年目に入る鶴見図書館には、特別な蔵書がまとめられたコーナーがいくつかあります。

平成15年には、中学生・高校生のための「ティーンズ・コーナー」ができました。この年代の方が特に必要とする、進路に関する本、心とからだの健康についての本、中高生に人気の小説などが1,400冊ほど並んでいます。ここで気に入りの本を見つけた人たちが、将来どんな図書館を利用しても、自由に読みたい本を探せるようになればと願って、工夫を重ねています。

外国語図書コーナーは、日本語以外のことばを使う方のための蔵書を備えています。韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語の本が、子ども用、大人用ともにあります。料理や育児の本、小説、日本語学習書など、日常生活に必要な本を提供しています。3階雑誌コーナーには、ペルーとブラジルの婦人雑誌、韓国の週刊誌もあります。

鶴見図書館では、これからも利用者の皆さんの声に耳を傾けつつ蔵書を充実させ、より生活に役立つ図書館にしていきたいと思っています。



ティーンズコーナー

## 瀬谷図書館

相鉄線瀬谷駅北口前のロータリーつきあたりで大型スーパーの角を左手に曲がると、まもなく「瀬谷中学校前」交差点に出ます。さらに道なりに行って、次の「瀬谷図書館前」交差点の先に当館があります。所要時間はおよそ8分です。



瀬谷図書館 入口

当館は、瀬谷八福神の一つとしても有名な徳善寺の、道路を挟んで向かい側にあります。桜の季節には図書館の2階からお花見が楽しめ、また春から夏にかけてはウグイスのさえずりがよく聞こえる、のどかな好環境にあります。

玄関を入ってすぐのホールには、「図書展示コーナー」を設け、季節や社会の動きに即したテーマのいろいろなジャンルの図書が、利用者の皆さんの目にとまるように配置されています。

また、地域に密着した情報拠点として、新聞やミニコミ誌に掲載された、瀬谷区民の投稿記事や出来事などを切り抜き掲示しています。魅力的な街づくりに貢献している区民の皆さんの生き生きとした活動状況を伝えてくれるこれらの資料は、一定期間掲示後、ファイルに綴り「瀬谷区郷土資料コーナー」に保存してい

ます。

子どもたちと本との出会いの場を作ることに力を入れています。3歳以上を対象にした、月に一度の「定例おはなし会」や、乳幼児のための、わらべ歌と読み聞かせを楽しむ「ひよこのおはなし会」を行い、親子のスキンシップや読書への導入の手助けをしています。小学生には、瀬谷区内のほとんど全校を対象に図書館職員が学校訪問を行い、また、小学校の図書館見学も受け入れています。

瀬谷図書館は、平成17年に開館20周年を迎えました。長きにわたって地域の皆さんに支えられてきたことに感謝し、特別企画を実施しました。平成16年12月から平成17年3月までの間、前半（12～1月末）は瀬谷区誕生の昭和44年から現在まで、後半（2～3月末）は戦後から昭和44年まで、の「ベストセラー展」を行ったほか、平成17年2月には、「折り紙講習会」を開催しました。

今後も図書の充実につとめ、地域の皆さんのお役に立つ図書館を目指します。あわせて、皆さんからの瀬谷の歴史を伝える写真や資料の御寄贈を心からお待ちしています。



特別企画 ベストセラー展

各図書館にある検索機、または横浜市立図書館ホームページ (<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/>) で、横浜市立図書館の蔵書、約340万冊（平成16年3月末現在）を調べることができます。また、横浜市内の図書館で所蔵していない、あるいは調べることでできない本の場合は、県立図書館・他都市の図書館・類縁機関・最終的には国立国会図書館に依頼することができます。地域図書館はこれらの窓口にもなりますので、ぜひご利用ください。

## 参考図書のあるこれ(第12回): マイクロフィルムで調べる

中央図書館では、明治時代に刊行された書籍から昨年発行の新聞まで、多岐にわたるマイクロ資料を所蔵しています。しかしながら、まだ「横浜市立図書館蔵書検索」(図書館内検索機やインターネット経由)では所蔵について調べることができません。そこで、今回は利用の多い代表的な資料をご紹介します。抜粋ではありますが所蔵目録を付けました。詳しくは中央図書館までお問い合わせください。

### 1. 神奈川新聞(横浜貿易新報)

地元のことを調べるときに欠かせない新聞ですが、縮刷版やCD-ROMが出版されていないため、マイクロフィルムがよく利用されます。神奈川新聞の前身、横浜貿易新聞は明治23(1890)年の創刊です。中央図書館では、明治24(1891)年1月～7月、明治31(1898)年4月～今日までを所蔵しています。

しかし、関東大震災や横浜大空襲などの災禍を経てきたためか、残念なことに第二次世界大戦以前のは、国立国会図書館や神奈川新聞社にも完全には残っておらず、当館の資料にもかなり欠落があります。

### 2. 朝日・毎日・読売新聞(神奈川版)

『朝日新聞神奈川版』 昭和12(1937)年3月～  
(前身の東京朝日新聞時代を含む)

『毎日新聞神奈川版』 昭和3(1928)年1月～

『読売新聞神奈川版』 昭和8(1933)年5月～  
(それぞれ欠部分あり。目録でご確認ください。)

通常、過去の新聞の調査には図書形態の縮刷版を使用します。しかし、縮刷版に収録されるのは「東京本社版最終版」で地方版は入っていません。横浜市の図書館である以上、横浜を含む地方版はぜひとも必要と考え、マイクロフィルムで収集しています。



当館所蔵資料に多い35ミリフィルム

### 3. 日刊スポーツ

昭和21(1946)年3月6日創刊の、わが国日刊スポーツ専門紙の草分けです。中央図書館では創刊号からご覧いただけます。

### 4. 横浜毎日新聞

わが国最初の日刊新聞です。発行元は横浜活版社で、明治3(1870)年12月8日に創刊されました。後に、政談演説クラブおとうめいしゃの機関紙となり「東京横浜毎日新聞」と改名、さらに「毎日新聞」「東京毎日新聞」と改名を重ね発行しましたが、昭和15(1940)年「帝都日日新聞」に合併されて廃刊となりました。

なお、「横浜毎日」と現在の「毎日新聞」とは、まったく別の新聞です。

### 5. 官報

明治16(1883)年の創刊第1号から所蔵しています。(最新の1週間分はご自宅などからインターネットで調べられます。)

<http://kanpou.npb.go.jp/index.html>



中央図書館3階のマイクロリーダープリンター  
操作は簡単です。初めての方はカウンターにお申し出いただければご説明します。



## 中央図書館所蔵 マイクロ資料目録 (抜粋)・1

マイクロ以外に図書・雑誌・CD-ROMの形態で所蔵している場合があります。詳しくはお問い合わせください。

### <新聞>

平成16年12月現在

タイトル	内容・特徴
朝日新聞 (神奈川版のみ)	昭和15年～
神奈川県新聞	昭和15年12月12日～昭和16年12月
神奈川新聞	昭和17年1月～ (欠: 昭和19年8月、11月 製本分も7～9月欠)
近代日本キリスト教新聞集成	七一雑報、福音新報、東京毎週新報、基督教新聞、東京毎週新誌、基督教世界、福音週報、福音新報、護教、教界新報、教会時報、日本メソヂスト新聞、日本基督教新聞、日本メソヂスト時報、日本基督教新報、教報、基督教報、日本バプテスト教報、聖戦、バプテスト、路帖新報、るうてる、基督教聯盟、聯盟時報、教団時報、焰の舌、聖潔之友、きよめの友、靈光、聖書之道、同胞、福音の使
近代美術関係新聞記事資料集成	明治24年～昭和16年 東京藝術大学附属図書館所蔵 東京美術学校収集、美術関係の新聞記事
建通新聞神奈川	昭和60年1月～昭和61年12月、平成2年1月～9月
人民日報	1994 (平成6) 年1月～1997 (平成9) 年12月
中外商業新報 (日本経済新聞)	明治22年5月～昭和17年11月
中外物価新報 (日本経済新聞)	明治9年12月～明治22年4月
東京朝日新聞	昭和12年3月～昭和20年12月
東京毎日新聞 (横浜毎日新聞)	明治39年7月～明治45年12月、大正元年～大正15年12月、昭和2年5月～昭和7年11月
東京横浜毎日新聞 (横浜毎日新聞)	明治13年7月～明治19年4月
日刊スポーツ	昭和21年3月～
日本経済新聞	昭和20年1月～昭和30年12月 縮刷版あり
日本産業経済新聞 (日本経済新聞)	昭和17年12月～昭和19年12月
文匯報	1994 (平成6) 年1月～1997 (平成9) 年12月
毎日新聞 (横浜毎日新聞)	明治19年5月～明治39年6月
毎日新聞 (神奈川版のみ)	昭和3年1月～
都新聞	明治17年9月～昭和17年9月 (揃いは明治34年9月から) 復刻版 (明治21年1月～大正2年6月) 有り
横浜貿易新聞・横浜貿易新報	明治24年1月～7月、明治31年4月～明治44年12月、明治45年1月～大正10年6月、大正11年2月～昭和15年12月11日 (欠: 大正7年8～9月 大正12年9～12月)
横浜毎朝新報	大正13年6月～昭和5年4月4日
横浜毎日新聞	明治3年12月8日～明治13年6月
横浜毎日新報 (横浜毎朝新報)	昭和5年4月5日～昭和6年3月
読売新聞 (神奈川版のみ)	昭和8年5月～昭和19年3月、昭和21年1月～
The Japan Times	1977 (昭和52) 年1月～1988 (昭和63) 年12月 縮刷版あり

### <雑誌>

タイトル	内容・特徴
「解放」	大正8年6月(1-1)～大正12年9月、大正14年7月(2-1)～昭和3年1月
近代日本軍隊関係雑誌集成	内外兵事新聞、月曜会記事、偕行社記事、保守新論、海軍雑誌、水交雑誌、ほか
近代日本婦人雑誌集成	婦人協会雑誌/婦人雑誌、つば美、婦女雑誌、裏錦、婦人弘道叢記、日本之家庭/家庭教育/日本の家庭、助産の菜、女子之友、淑女、をんな/なでしこ/大和なでしこ、婦人界、家庭の友 (明治期創刊の婦人雑誌)
国華	明治22年10月～ 美術雑誌
「新潮」	明治37年(1)～昭和20年3月(1307)
中央美術	大正4年10月(1)～大正8年5月
婦人世界	明治39年1月～明治44年12月 実業之日本社発行
「文章世界」	明治39年3月(1)～大正10年12月

## 6. 土地宝典



明治期から昭和にかけて、登記所や市町村役場の公図と土地台帳を元に編集し、地番・地目・地籍・地価・所有者名（居住者名ではない）などを記載した「土地宝典」と呼ばれる地図帳が発行されました。今日の住宅地図に通ずるものです。

地図により、出版社、タイトル、縮尺、記載事項が異なり、全国を網羅するものではありませんが、当時の地籍を知る貴重な資料です。

### 横浜市内

資料名	出版年
横浜全図（実測横浜区全図）	明治17（1884）年
土地宝典横浜市街全図	明治39（1906）年
横浜市全図	大正7（1918）年 以後震災前（推定）
横浜市土地宝典中区之部	昭和5（1930）年
横浜市土地宝典磯子区之部	昭和6（1931）年
横浜市土地宝典保土ヶ谷区之部	昭和6（1931）年
横浜市土地宝典神奈川区之部	昭和7（1932）年
横浜市土地宝典鶴見区之部	昭和7（1932）年

## 中央図書館所蔵 マイクロ資料目録（抜粋）・2

マイクロ以外に図書・雑誌・CD-ROMの形態で所蔵している場合があります。詳しくはお問い合わせください。

### <官報・政府関係>

平成16年12月現在

タイトル	内容・特徴
官員録・職員録集成	明治元年～昭和14年 国立公文書館所蔵 中央官庁部のみ 403冊 496点
官報	明治16年～平成15年12月 以後は冊子で所蔵
参議院委員会会議録	昭和22年(1)～昭和45年(45)
司法省年報	法務省法務図書館所蔵、司法省刑事統計年報（明治8年～昭和15年）、司法省民事統計年報（明治8年～昭和15年）、司法省登記統計年報（明治20年～昭和15年）、司法省行刑（監獄）統計年報（明治32年～昭和15年）
衆議院委員会会議録	昭和22年(1)～昭和44年(61)
朝鮮総督府官報	1910（明治43）年8月～1945（昭和20）年8月 1910年8月の韓国併合、朝鮮総督府の創立から1945年8月の敗戦、総督府の崩壊までの35年間にわたる資料
陸海軍省年報	陸 明治8年～昭和12年 海 明治11年～昭和16年

### 横浜市域外（当時）

資料名	出版年
横樹郡日吉村 土地宝典	昭和8（1933）年
都筑郡田奈村 地番反別地目入図	昭和5（1930）年
都筑郡中里村 地番反別入地図	昭和5（1930）年
都筑郡中川村 地番反別地目入図	昭和5（1930）年、 推定
久良岐郡金沢町 土地宝典	昭和6（1931）年
鎌倉郡戸塚町 地番反別入図	昭和3（1928）年
鎌倉郡川上村 地番反別入地図	昭和4（1929）年
鎌倉郡瀬谷村 地番反別入地図	昭和4（1929）年
鎌倉郡中川村 地番反別入図	昭和2（1927）年
鎌倉郡中和田村 地番反別入図	昭和3（1928）年
鎌倉郡大正村 地番反別入図	昭和2（1927）年

## 7. 移民関係資料

横浜港は、神戸港とならぶ海外移民渡航の門戸として、多くの渡航者を送り出してきました。移民の歴史は、横浜の近・現代史の一側面として看過できない郷土の歴史です。

### (1) 日伯（ブラジル）移民関係新聞

『日伯新聞』	1924年1月～1939年
『日本新聞』	1932年1月～1937年12月
『バストス週報』	1951年8月～1978年12月
『ブラジル朝日新聞』	1940年～1941年12月
『南米新報・週刊南米』	1923年1月～1941年8月
『聖州新報』	1923年1月～1941年1月

### (2) アルゼンチン邦字新聞

『亜爾然丁時報』	1925年5月～1944年8月
『ラプラタ報知』	1949年1月～1982年12月

- (3) カリフォルニア大学所蔵移民新聞  
『馬哇（マウイ）新聞』 1915年1月～1941年11月  
『櫻府（オアフ）日報』 1909年5月～1939年7月  
『コロラド新聞』 1911年2月25日～1917年12月  
『山東時報』 1911年2月25日～1918年1月26日

『Tairiku Nippo』（カナダ／バンクーバー）  
1908年1月1日～1941年12月6日

(4) 北米移民関係新聞

- 『Kashu Mainichi』（ロサンゼルス）  
1931年11月5日～1980年12月29日  
『Utah Nippo』（ソルトレークシティ）  
1917年8月1日～1988年12月24日  
『日米』（サンフランシスコ）  
1919年1月～1932年7月  
『日米時事』（サンフランシスコ）  
1946年5月～1986年12月

- (5) ブラジル日本移民資料館所蔵・展示資料  
『移民調査報告書』、『敗戦派週報』、『船内発行新聞』、  
『リンス週報』、『移民輸送船監督報告書』ほか

- (6) 南伯農協中央会所蔵資料  
『組合員月報』、『従業員月報』、『事業及び決算報告書』ほか

(K.M.)

◇今回ご紹介したのは、図書館資料のほんの一部  
です。調べ物でわからないことがある場合は、  
お気軽にお尋ねください。

### 中央図書館所蔵 マイクロ資料目録（抜粋）・3

マイクロ以外に図書・雑誌・CD-ROMの形態で所蔵している場合があります。詳しくはお問い合わせください。

<文書・文献等>

平成16年12月現在

タイトル	内容・特徴
岩倉使節団文書	各国政府との交渉記録、各国滞在中の雑務書類、各地で収集した膨大な記録等
霞亭文庫（東京大学総合図書館蔵）	東京大学総合図書館蔵 渡辺霞亭の江戸文学書コレクション、1,159点、2,032冊
旧幕府引継書	徳川幕府から明治新政府に引き継がれた幕藩体制化の詳細な記録、7,000点以上
近代緒家文書集成	「松方正義文書」、「勝田主計文書」、「松尾臣善文書」、「目賀田種太郎文書」、「曾根荒助文書」、「水町袈裟六文書」（「松方正義文書」のみ図書資料も所蔵）
郡是市町村是調査資料	第5回内国勲業博覧会（明治36年）出品分など明治中・後期の産業および地域関係のデータ
国立国会図書館蔵明治期刊行図書	明治期刊行図書、約160,000冊
古辞書集成	静嘉堂文庫所蔵 平安期～明治期 362点
初期日本英学資料集成	江戸末期～明治初期 英学研究初期の刊本 230点 295冊
初期日本関係米英両国議会資料	1852（嘉永5）年～1877（明治10）年のブルーブック、ホワイトブックなどの日本関係記事
初期日本蘭仏独露語文献集	洋学研究初期の文献のうち英語を除く諸語に関する文献集
日本史関係資料	ハーバードロースクール所蔵 1936（昭和11）年にハーバード大学創立300年を記念して日本から寄贈したもの 法制史関係多 原本309点
福沢関係文書	福沢諭吉、慶応義塾関係資料
明治期刊行物集成	早稲田大学所蔵文学・言語関係資料
明治期女子教育文献集成	女子教育、女性訓に関する図書395点
明治期婦人伝記文献集成	国立国会図書館所蔵 明治年間に発行された婦人伝記に関する図書226点
明治前期民情調査資料 偵察録	陸軍参謀本部付尉官が地形図測量に併行して実地調査したペン書きの秘密報告書、全252冊

<ヨコハマ>

タイトル	内容・特徴
広報よこはま	昭和21年～平成9年度
選挙のあゆみ	昭和22年～昭和62年
横浜市会会議録	昭和22年～昭和52年、昭和63年～平成8年
横浜市会速記録	明治42年～昭和4年
横浜市職員録	昭和10年～昭和25年、昭和27年～昭和36年、昭和37年～昭和40年
横浜市統計書	明治36年～明治41年
横浜市報	明治30年～大正12年
横浜市町別世帯と人口	昭和12年～平成4年



横浜市中央図書館の前身 横浜市図書館（昭和2年）

横浜市立図書館

中央図書館（移動図書館も）	262-0050（代表）	金沢図書館	784-5861	戸塚図書館	862-9411
鶴見図書館	502-4416	港南図書館	841-5577	港北図書館	421-1211
神奈川図書館	434-4339	保土ヶ谷図書館	333-1336	緑図書館	985-6331
中図書館	621-6621	旭図書館	953-1166	山内図書館	901-1225
南図書館	715-7200	磯子図書館	753-2864	都筑図書館	948-2424
子約図書情報ダイヤル	262-0040	ホームページ	<a href="http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/">http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/library/</a>		

※図書館ホームページに、図書館報総目次が掲載されています。第49号からは、館報本文も掲載しています。

編集・発行 横浜市中央図書館 企画運営課 横浜市西区老松町1  
 発行日 平成17年3月10日 横浜市広報印刷物登録 163030号 B-ME160